

本報告書の 59～60 ページの「11 酒類」の部分が、令和 3 年度版から更新されていませんでした。

謹んでお詫び申し上げますとともに、下記のとおり訂正させていただきます。

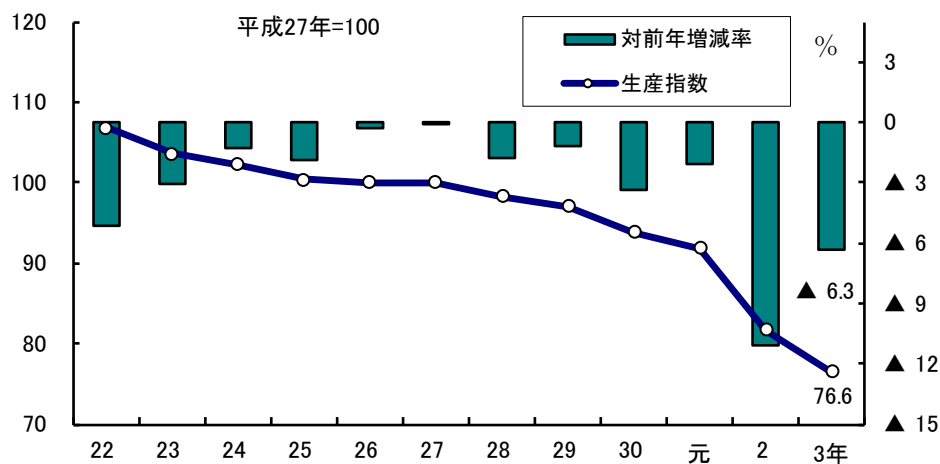
(誤)

## 11 酒類

令和 3 年の酒類の生産指数（平成 27 年=100、一部推定を含む暫定値）は 76.6 で、対前年比 ▲6.3% とかなりの程度低下した。令和 2 年から続く感染症対策による自治体等からの飲食店等への時短・休業要請の影響が大きいと見受けられる。また、近年の推移も、低下傾向にある（図 2-27）。

対前年比を品目別にみると、スピリッツが対前年比でかなり大きく上昇した。一方、清酒及び合成清酒はかなり大きく低下し、焼酎、果実酒、ウイスキー、リキュール及び雑酒はかなりの程度低下し、ビール及びブランデーはやや低下し、みりんはわずかに低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、スピリッツはプラス、焼酎、清酒、ビール、雑酒、ウイスキー、リキュール及び果実酒はマイナスであった。特に焼酎、清酒及びビールの低下が全体を押し下げている（図 2-28、表 2-14）。

図 2-27 酒類の生産指数の推移



### ビールはやや低下

ビールの出荷量（1～11月）は 163 万 5 千 kl で、生産指数は対前年比 ▲3.2% とやや低下した。発泡酒やノンアルコールのビール風味商品など低価格商品への移行に加え、令和 2 年から続く感染症対策のための飲食店への時短・休業要請の影響によるものと見受けられる。

また、特に若者の酒類離れが大きく響いているものとみられる。

### 焼酎、ウイスキーはいずれもかなりの程度低下

焼酎の出荷量（1～11月）は 59 万 6 千 kl で、生産指数は対前年比 ▲9.0% とかなりの程度低下した。また、ウイスキーについても出荷量（1～11月）が 11 万 5 千 kl で、生産指数は対前年比 ▲9.7% とかなりの程度低下した。

### スピリッツはかなり大きく上昇、リキュールはかなりの程度低下

スピリッツの出荷量（1～11月）は 90 万 6 千 kl で、生産指数は対前年比 11.0% とかなり大きく上昇した。一方、リキュールの出荷量（1～11月）は 218 万 kl で、生産指数は対前年比 ▲7.5% とかなりの程度低下した。

図 2-28 酒類の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

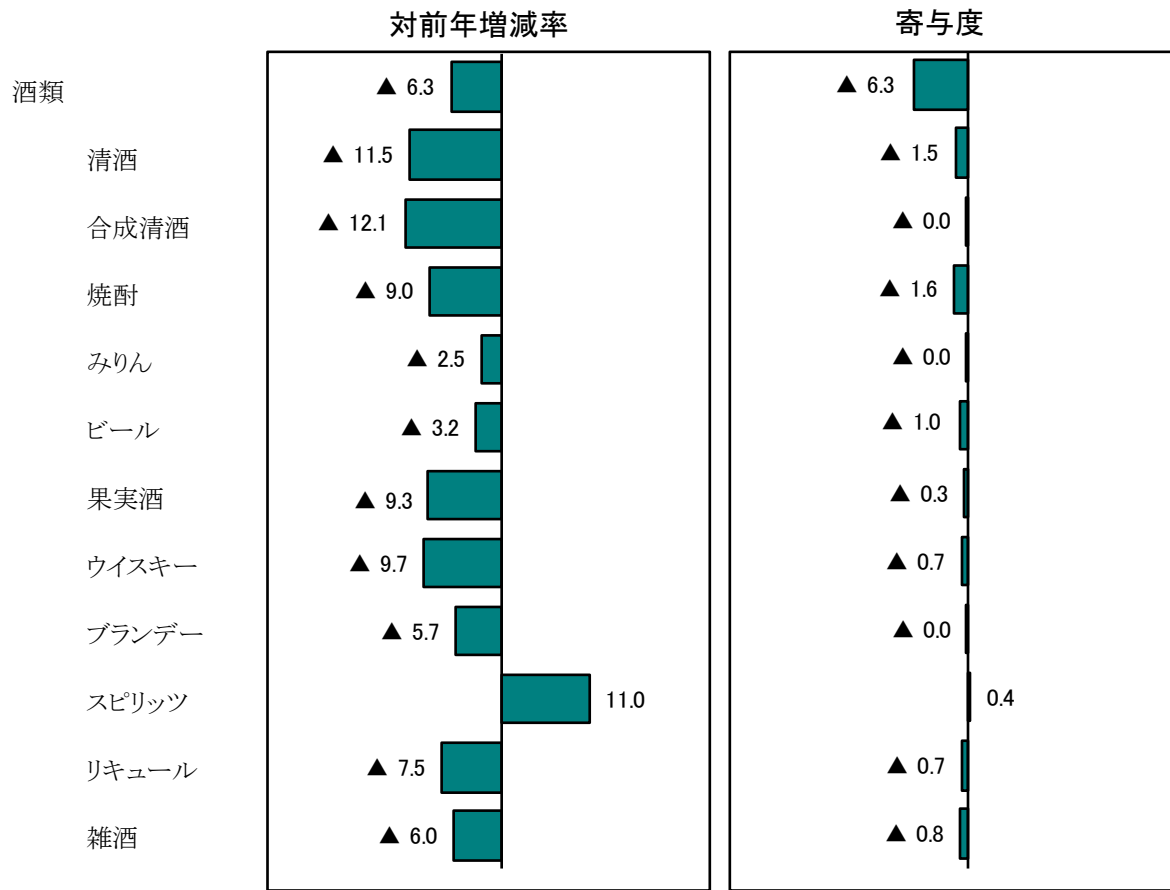


表 2-14 酒類の品目別生産指数の推移

品目	年次 ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 3年/2年
		27年	30年	令和元年	2年	3年	27年	30年	令和元年	2年	3年	
酒類	1,731.5	100.0	93.8	91.9	81.7	76.6	▲ 0.0	▲ 3.4	▲ 2.0	▲ 11.1	▲ 6.3	▲ 6.3
清酒	242.8	100.0	89.2	84.1	75.4	66.7	▲ 2.0	▲ 7.1	▲ 5.7	▲ 10.4	▲ 11.5	▲ 1.5
合成清酒	4.5	100.0	79.6	74.2	60.1	52.8	▲ 4.7	▲ 9.8	▲ 6.8	▲ 19.0	▲ 12.1	▲ 0.0
焼酎	288.9	100.0	92.5	88.9	85.5	77.8	▲ 2.8	▲ 4.4	▲ 3.9	▲ 3.8	▲ 9.0	▲ 1.6
みりん	25.5	100.0	93.3	93.4	85.8	83.7	3.6	▲ 5.0	0.1	▲ 8.1	▲ 2.5	▲ 0.0
ビール	637.7	100.0	90.6	87.2	67.3	65.2	0.3	▲ 5.1	▲ 3.7	▲ 22.8	▲ 3.2	▲ 1.0
果実酒	44.7	100.0	107.3	105.7	112.5	102.0	1.2	4.4	▲ 1.5	6.4	▲ 9.3	▲ 0.3
ウイスキー	88.6	100.0	130.7	141.1	119.3	107.7	17.2	9.7	8.0	▲ 15.5	▲ 9.7	▲ 0.7
ブランデー	0.2	100.0	80.3	78.2	73.2	69.1	▲ 4.0	▲ 10.5	▲ 2.6	▲ 6.4	▲ 5.7	▲ 0.0
スピリッツ	23.8	100.0	150.8	172.9	188.9	209.8	12.1	16.3	14.6	9.3	11.0	0.4
リキュール	97.3	100.0	113.2	123.8	133.5	123.5	1.4	7.9	9.5	7.8	▲ 7.5	▲ 0.7
雑酒	277.4	100.0	81.2	76.6	72.0	67.7	▲ 2.5	▲ 8.3	▲ 5.7	▲ 6.0	▲ 6.0	▲ 0.8

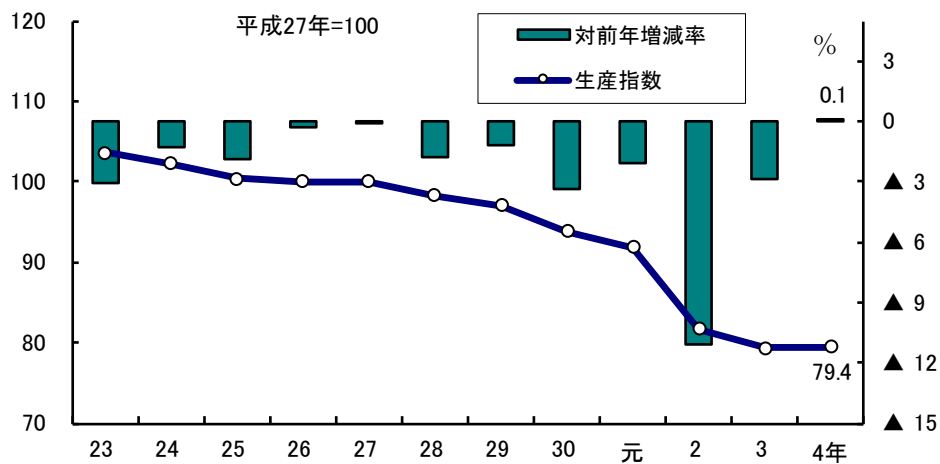
(正)

## 11 酒類

令和4年の酒類の生産指数（平成27年=100、一部推定を含む暫定値）は79.4で、対前年比0.1%と前年並みとなった。令和2年から続く感染症対策による自治体等からの飲食店等への時短・休業要請の影響が大きいと見受けられる。ただし、低下傾向には歯止めがかかったように見受けられる（図2-27）。

対前年比を品目別にみると、ビール及びウイスキーが対前年比でかなりの程度上昇した。またブランデーはやや上昇し、みりんがわずかに上昇した。一方、清酒及び果実酒はかなり大きく低下し、雑酒はかなりの程度低下し、リキュールはやや低下し、焼酎及びスピリッツはわずかに低下した。また、合成清酒は前年並みとなった。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、ビール及びウイスキーはプラス、清酒、焼酎、果実酒、スピリッツ、リキュール及び雑酒はマイナスであった（図2-28、表2-14）。

図2-27 酒類の生産指数の推移



### ビールはかなりの程度上昇

ビールの出荷量（1～11月）は188万5千klで、生産指数は対前年比10.5%とかなりの程度上昇した。令和2年から続く感染症対策のための飲食店への時短・休業要請が緩和されたことの影響によるものと見受けられる。

### 焼酎はわずかに低下、ウイスキーはかなりの程度上昇

焼酎の出荷量（1～11月）は60万5千klで、生産指数は対前年比▲1.8%とわずかに低下した。一方、ウイスキーについては出荷量（1～11月）が13万2千klで、生産指数は対前年比10.7%とかなりの程度上昇した。

### スピリッツはわずかに低下、リキュールはやや低下

スピリッツの出荷量（1～11月）は89万2千klで、生産指数は対前年比▲2.2%とわずかに低下した。また、リキュールの出荷量（1～11月）は207万8千klで、生産指数は対前年比▲5.2%とやや低下した。

図 2-28 酒類の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

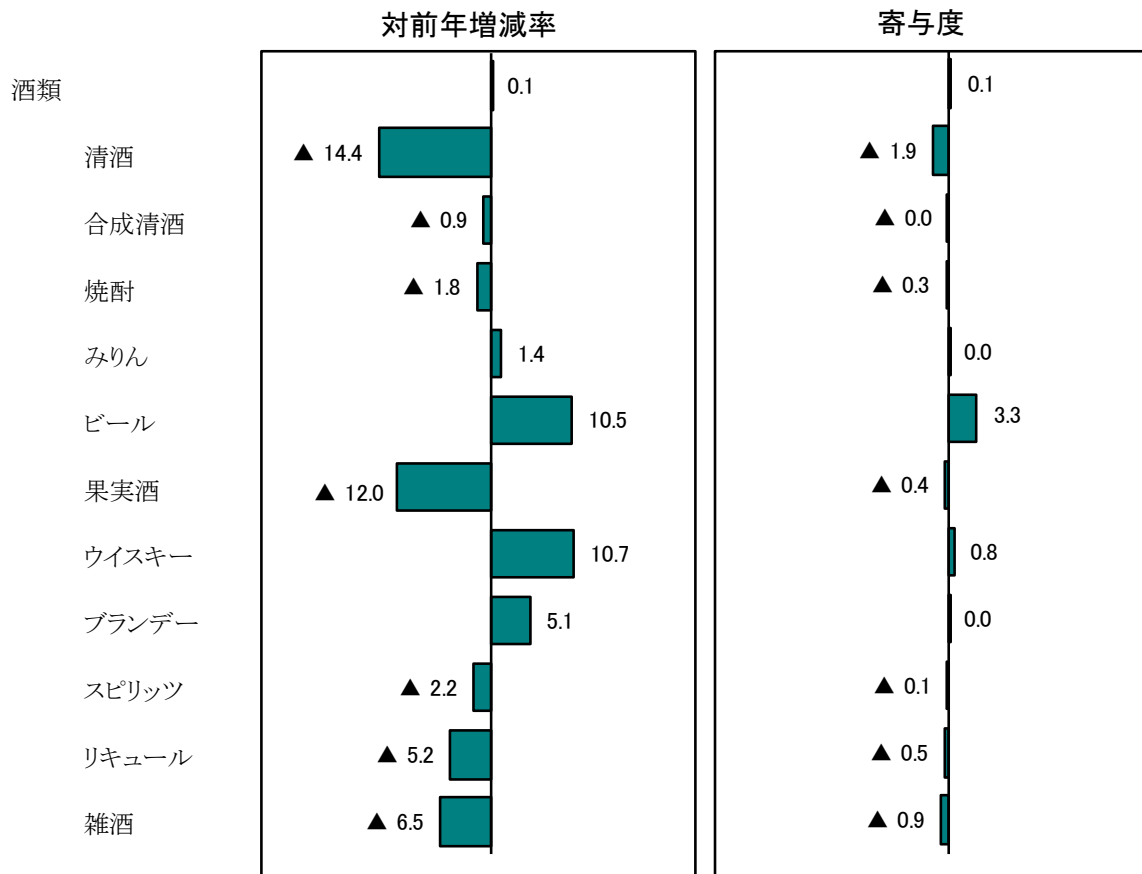


表 2-14 酒類の品目別生産指数の推移

品目	年次 ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 4年
		27年	令和元年	2年	3年	4年	27年	令和元年	2年	3年	4年	
酒類	1,731.5	100.0	91.9	81.7	79.3	79.4	▲ 0.0	▲ 2.0	▲ 11.1	▲ 2.9	0.1	0.1
清酒	242.8	100.0	84.1	75.4	72.8	62.4	▲ 2.0	▲ 5.7	▲ 10.4	▲ 3.4	▲ 14.4	▲ 1.9
合成清酒	4.5	100.0	74.2	60.1	55.1	54.6	▲ 4.7	▲ 6.8	▲ 19.0	▲ 8.3	▲ 0.9	▲ 0.0
焼酎	288.9	100.0	88.9	85.5	80.4	79.0	▲ 2.8	▲ 3.9	▲ 3.8	▲ 6.0	▲ 1.8	▲ 0.3
みりん	25.5	100.0	93.4	85.8	87.0	88.2	3.6	0.1	▲ 8.1	1.4	1.4	0.0
ビール	637.7	100.0	87.2	67.3	68.0	75.2	0.3	▲ 3.7	▲ 22.8	1.1	10.5	3.3
果実酒	44.7	100.0	105.7	112.5	105.4	92.8	1.2	▲ 1.5	6.4	▲ 6.3	▲ 12.0	▲ 0.4
ウイスキー	88.6	100.0	141.1	119.3	111.5	123.4	17.2	8.0	▲ 15.5	▲ 6.6	10.7	0.8
ブランデー	0.2	100.0	78.2	73.2	70.2	73.8	▲ 4.0	▲ 2.6	▲ 6.4	▲ 4.1	5.1	0.0
スピリッツ	23.8	100.0	172.9	188.9	211.1	206.4	12.1	14.6	9.3	11.7	▲ 2.2	▲ 0.1
リキュール	97.3	100.0	123.8	133.5	124.2	117.8	1.4	9.5	7.8	▲ 7.0	▲ 5.2	▲ 0.5
雑酒	277.4	100.0	76.6	72.0	68.1	63.7	▲ 2.5	▲ 5.7	▲ 6.0	▲ 5.4	▲ 6.5	▲ 0.9